

### 男子思春期の乳腺痛

山浦 篤

(板橋區板橋町 6-3466)

少年より青年にうつる時期の男子に「乳のあたりが固くなつた。觸れば痛い。病氣ではないか？」と臨床家は屢々問はれる。

これは早いものは數日で、こりも痛みも消え、長びくと半年以上も續き、痛みも薄らいだり強くなつたりする。多くは、數年もたてば特別の印象もなく忘れ去られるから、大人を調査しても無經驗者か忘れたのか區別できず、幾%の男子にこの乳腺痛がくるかは判定し難く、東京市内學校生徒では 120人/682人を得たが、私のある調査では 40%以上の乳腺痛體驗者を見た。

表 1 男子乳腺痛年齢

私はこれを聲變りのやうな男子思春期の I 表徴と見なし、女子の月經初潮がその身心發育に及ぼす影響と比較<sup>1)</sup>し、甚だ似た種々の結果を得た。

#### I 乳腺痛年齢

これは遺傳、生活環境によることは當然考へられるが満 13歳-14歳 11月

年齢 月數	11	12	13	14	15	16	
0	—	—	—	5	3	1	
1	—	1	2	3	1	—	
2	—	1	2	2	—	—	
3	—	—	1	5	1	—	
4	—	—	1	4	1	—	
5	—	—	2	6	1	2	
6	—	—	1	5	—	—	
7	—	—	7	4	3	—	
8	1	—	4	5	2	—	
9	—	—	6	3	1	—	
10	—	1	1	5	1	—	
11	—	—	3	3	—	—	
合計	1	3	30	50	14	3	101

1) 松林鎭三：女子身體發育に関する研究. 民族衛生. 2, 1 (1932). (女子月經に関する論文は内外甚だ多いが、主要文献は上に含まる).

の2年間に80%があり、平均年齢は14年3月である。女子初潮が、女生徒の場合、やはりこの期間にくるものが最も普通であるのとよく似てゐる。また女生徒が一般女より早く來潮し、しかも東京女生徒が早いと同様のことが男子の場合にも行はれてゐるに相違ない。

**II 乳腺痛と季節との關係** 女生徒の初潮が一般女と違ひ、1月、4月特に8月に多く、初潮が學校休暇のやうな、有力な生活環境の變化と關係があると云ふ諸研究者（松林、松山、小畑、葛、三田谷）の結果と、男生徒を材料とした乳腺痛到來は、驚くばかり似よつた季節の變化を示す。この調査は未だ深くは進んでゐないが、數の増加とともに幾分の動搖はあらうと、この類似性を根本的にこはすとは思はれない。

**III 乳腺痛と身體發育との關係** 乳腺痛到來月の身長、纏體重、Rohrer氏指數を調査すれば、こゝにも女子初潮時の身體發育状態に似た現象を發見する。

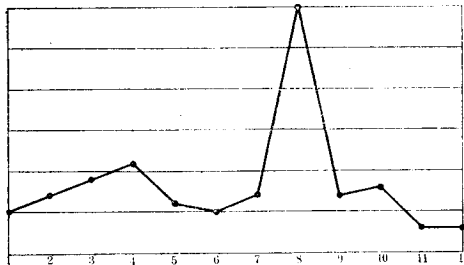


圖1 男子乳腺痛と季節との關係。3、4月、特に8月に多いことは、女生徒の來潮と鋭い一致を示す。縦は人員、横は月。

Rohrer氏指數を調査すれば、こゝにも女子初潮時の身體發育状態に似た現象を發見する。

即ち年齢よりも、身體發育がある程度に及んだ時、乳腺痛がくる。表2の星印の平均値は人員の割によく近よつてゐる。今これら區域の平均値を得て、女子初潮の月の發育度（松

林氏の結果）と比較すれば、

	♂ (乳腺痛)	♀ (初潮)
身長 (Lcm)	156 cm	148 cm
纏體重 ( $\frac{Gg}{Lcm}$ )	281	273
R.指數 ( $\frac{Gg}{Lcm^3}$ ) × 100	1.17	1.26

Rohrer氏指數は、上の男子の場合、少年期を年齢増加に伴ひ減少してきた曲線の極小値附近であるのに、女子の場合は、極小値より後のや

や昇りかけた所にある<sup>1,2)</sup>。女子が初潮前に乳腺痛を経験するものが多いことを考慮すれば興味深い。

この乳腺痛の時期を中心とした前後2年位は、女子の場合で確かめられたやうな、整然とした身體充實の経過をたどるものと思へる。

表2 乳腺痛の月の身長、體體重、Rohrer氏指數

年齢		身長		平均		體體重		平均		Rohrer氏指數		平均	
13	前	148.5 cm				310				1.42			
	後	136.7	149.0	148.7±2.5		209	274	263±9		1.05	1.22	***1.18±0.03	
		143.2	152.0			252	277			1.11	1.25		
		145.6	159.4			253	278			1.19	1.27		
		148.5				262	302			1.19			
14	前	145.0	156.0	*156.5±1.7		246	288	**281±5		0.93	1.18	***1.17±0.03	
		145.8	153.0			258	288			1.06	1.23		
		151.0	160.7			268	290			1.09	1.26		
		152.4	162.5			269	295			1.11	1.26		
		154.2	162.8			278	303			1.15	1.27		
		154.5	166.0			283	307			1.16	1.33		
	後	145.4	157.0	*156.4±1.4		235	288	**279±6		1.02	1.17	***1.18±0.03	
		149.5	157.8			252	289			1.05	1.22		
		151.8	158.0			258	291			1.08	1.25		
		152.1	160.0			262	295			1.12	1.25		
		152.7	162.6			265	300			1.15	1.28		
155.8	163.3	283	302	1.16	1.35								
153.2	163.7	287	307	1.16	1.37								
15	前	145.0	155.7	*155.7±2.3		230	288	**283±14		1.01	1.10	***1.14±0.04	
		149.5	161.7			245	293			1.06	1.31		
		152.2	163.0			284	354			1.08	1.33		
		154.4	164.4			285				1.10			
	後	176.8				283	303	293	0.93	1.19	1.08		

V 彼等は乳腺痛を如何に處理したか？ 體驗者の50%は自分の乳が固く、觸れば痛いことを友達に、20%は兩親や兄に打あけ、30%は誰にも話さなかつた。

母に話したら、丁度乳痛をやつた叔母があつたので、母は非常に心配し醫者に見せ、「何でもない。男でもたまに女のやうなのがある」と云はれたやうな例はあるが、本人は多く樂天的で、過度の運動のせいだと解

2) 秋田善雄：學齡兒童の身體各部發育及び比例に關する研究 (1). 東京醫學會雜誌. 44, 1 (1930).

釋したものが多く、病的なものや氣にやんだのは少ない。地方の少年には自分の乳腺痛がくる前に、既に友達の話で豫備知識を得てゐたものも多い。

最初に乳部異常に氣づいたのは入浴の際が最も多い(40%)。

思春期の色々な表徴が、如何なる心理的影響を本人に與へるかを男女に於て比較することは、殘された沃地である<sup>3)</sup>。

[この研究はまとめて遺傳學雜誌に發表の豫定]

(受附：昭和17年5月1日)

---

3) 青木誠四郎：月經に関する調査。心理研究。18, 6 (1920); 岩岡圓子, 三田谷啓：月經に関する調査。兒童研究。30, 3 (1926)。